

平成 24 年 11 月 8 日

1 1 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。

- 福島第一原子力発電所の事故から 1 年 8 ヶ月近く経とうとしていますが、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、今なお、大変なご迷惑とご心配、ご苦勞をおかけしておりますことを、あらためてお詫び申し上げます。

- まずは、当社の再生への経営方針及びアクション・プランについてです。
昨日、再生への経営方針ならびに、これに向けた改革集中実施アクション・プランについて公表させていただきました。当社は福島第一原子力発電所の事故の当事者として、事故の責任を全うし、世界最高水準の安全確保と競争の下での安定供給をやり抜く、このことを企業の新たな使命とし、この使命を果たしていく企業に生まれ変わることで、社会からの信頼回復に努めてまいります。
具体的な改革集中実施アクション・プランを 71 項目お示しさせていただいておりますが、当発電所に直接関連する項目としては、世界最高水準の安全確保を目指して原子力改革を進めていくことが挙げられます。原子力改革特別タスクフォースにて、年末までに原子力改革プランの策定を進めているところですが、当所としましては、これまでの安全対策や改善に向けた取り組みを着実に進めるとともに、今後取りまとまる原子力改革プランに全力で取り組んでまいり所存です。

- 次に、発電所の安全対策に関する主な取り組み状況についてです。
1～4 号機側の防潮堤の工事については、本体となる擁壁部の鉄筋の組み上げやコンクリート打設作業を進めており、全 50 ブロック中 13 ブロックが完成し、順調に工事を進めているところです。

また、防潮壁については、2～4 号機において壁の本体工事を進めており、それぞれの工事進捗は、2 号機が約 3 割、3 号機が約 8 割、4 号機が約 6 割となっており、来年 3 月の完成を目指して工事を進めております。

淡水貯水池については、先月末までに遮水シートの敷設作業を終え、本体工事をほぼ完了いたしました。その後、水張り作業を開始しており、今後、送水試験などを経て、年内には運用可能な状態になるものと考えております。

現在進めております安全対策については、今後も安全を最優先に着実に工事を進め、発電所のさらなる安全性の向上に努めてまいります。

また、敷地内、敷地外のボーリングについても、ほぼ予定通り進んでおります。ボーリングは年内には作業を終え、来年2月頃までに評価結果を取りまとめてまいりたいと考えております。

○ 次に、低レベル放射性廃棄物の輸送についてです。

今週初めに、低レベル放射性廃棄物について、当所より青森県六ヶ所村にある日本原燃・低レベル放射性廃棄物埋設センターへ初めて搬出いたしました。

低レベル放射性廃棄物を適切に処理・処分していくことは、発電所を管理・運営する上で必要となる取り組みの一つであると考えており、今後も関係箇所との調整を行いながら、計画的な対応に努めてまいります。

○ 次に、使用済燃料のウォータ・ロッドに関する調査状況についてです。

当所においては、チャンネルボックス上部の点検作業の一環で、使用済燃料のウォータ・ロッドに曲がりがあることを確認したことから、継続した調査を進めており、これまでに18体に曲がりを確認しております。

これらは、いずれも使用済燃料であり、使用していた当時も放射線を測定するモニタの値に問題は確認されておられません。曲がりにはチャンネルボックスの取り付け作業の施工方法に何らかの原因があったものと考えております。

本件については、10月19日に原子力規制委員会より指示文書を受領しており、継続してウォータ・ロッドの曲がりの状況把握と原因究明を行っていくとともに、当該燃料の健全性に対する影響評価を実施し、結果については、まとまった段階で原子力規制委員会へご報告してまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX
プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成24年11月)

平成24年11月8日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況											補足説明									
			12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11								
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間: H23.8.6~	第15回 H19.5.4 ~ H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)																					
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間: H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)																					
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間: H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)																					
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間: H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)																					
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間: H24.1.25~	第12回 H18.11.24 ~ H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)																					
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間: H24.3.26~	第9回 H22.10.31 ~ H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)																					
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間: H23.8.23~	第9回 H22.4.18 ~ H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)																					

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (10月末現在)

10月	0.0%
24年度累計	0.0%
運転開始後累計	61.4%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (10月末現在)

10月	0
24年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H24年度第2四半期)

当期発生本数	1,398
貯蔵庫累積貯蔵本数	33,538
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H24年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,772
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (11月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	889	2,216	58%
	刈羽村	92	220	6%
	その他	115	990	20%
	小計	1,096	3,426	84%
県外		112	764	16%
合計		1,208	4,190 (3,559*)	-
		5,398		100%
協力企業社数(社)		652		

※11月1日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (10月末現在)

	10月	年度累計
地元	726	5,538
県内	731	5,827
県外	836	6,965
国外	21	211
合計	2,314	18,541

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
11月22日	定例の記者説明会
12月13日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	6月28日	1～7号機	柏崎刈羽原子力発電所屋外の軽油移送配管の点検について	<p>（事象の発生状況） 当所2、4号機において、屋外の軽油タンク周辺の配管の点検を行ったところ、4号機の非常用ディーゼル発電機燃料ディタンクへの一部の軽油移送配管の防食材外表面に浮き錆が確認されたことから、本年6月までに、防食材を取り外し当該配管表面の点検を実施した結果、錆による腐食を確認しました。 本事象を踏まえ、他のプラントの非常用ディーゼル発電機燃料ディタンクへの軽油移送配管の外観点検を実施したところ、1、5、6、7号機においても、軽油移送配管の防食材外表面の一部に浮き錆が確認されたことから、本年7月上旬より、計画的に当該箇所の詳細点検を実施することといたしました。 （2、3号機については軽油移送配管に浮き錆は確認されておりません。）</p> <p>（安全性、外部への影響） 腐食を確認した配管については、必要となる厚さは確保しており、安全上の問題はありません。</p> <p>（対応状況） <u>1、4、5、6、7号機の燃料移送配管で浮き錆が確認された箇所について、肉厚測定、外表面点検を行い、いずれの号機も主配管において必要最小肉厚を満足していることを確認するとともに、検知性を改善するため当該箇所の防食材を除去し塗装を行いました。</u> なお、5号機の付属配管の一部において浮き錆の除去により貫通穴（直径約1.5mm）を1箇所確認しましたが、当該配管は油を抜き取る際に使用する配管であり、系統の機能に影響を及ぼすものではないことを確認するとともに、応急処置として補修材による補修を実施しました。今後交換を行うこととしております。</p>
②	10月17日	5号機	燃料集合体ウォータ・ロッドの曲がり等について	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の5号機原子炉建屋4階の使用済燃料プールにおいて、平成24年9月25日より燃料集合体チャンネルボックス上部（クリップ部）に関連した点検作業を実施していたところ、10月16日、点検中の使用済燃料集合体2体でウォータ・ロッドの一部に曲がりがあることを確認しました。 また、同日、別の使用済燃料集合体1体において、線状の異物らしきもの1本（確認できる範囲では、長さ：約3～4mm 直径：1mm未満）が、スペーサに引っかかり付着していることを確認しました。 その後、ウォータ・ロッドの曲がりの詳細点検を計画した全47体中34体について使用済燃料集合体の外観点検を行い、18体（上記の2体含む）のウォータ・ロッドに曲がりがあることを確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） ウォータ・ロッドに変形が確認された使用済燃料集合体18体は、それぞれ使用期間は異なるが、平成6年から平成15年までの使用期間において、放射線モニタの値に問題は確認されておらず、現在は使用済燃料として保管しており、燃料の健全性に影響を与えるものではなかったと考えております。 これまでの確認においては、ウォータ・ロッドの曲がりは新燃料として原子炉内に装荷する前に、水中作業で再使用チャンネルボックスを取り付ける際の施工方法に何らかの原因があったものと推定しております。</p> <p>（対応状況） 原子力規制委員会からの指示文書に基づき、11月6日までに柏崎刈羽原子力発電所5号機のウォータ・ロッドの曲がりの調査計画を作成するとともに、曲がり確認された18体の詳細状況や、使用済燃料集合体の履歴等について、原子力規制委員会へ報告しました。 今後残りの13体について、外観点検を実施するとともに、策定した計画に基づき、曲がりの状況把握および原因究明を行い、その結果について原子力規制委員会へ報告してまいります。</p> <p>また、異物が確認されたことに関しては、近年、管理区域内でのワイヤブラシの使用を全面禁止する等、厳格に運用している異物混入防止対策を、引き続き適確に実施していくことで、燃料集合体への新たな異物の混入を防止してまいります。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	11月7日	1～7号機	階段通路誘導灯電源における回路の接続不備について	<p>（事象の発生状況）</p> <p>当社は、当所1号機において消防設備法定点検を実施した当社関連企業より、本来、単独の電源回路で供給されるべき階段通路誘導灯電源の回路に、管理区域境界避難扉監視装置の電源回路が接続されている箇所が3箇所あるとの報告を受け、平成24年11月6日、当該事象を消防法施行規則（第28条の三）の要求事項を満足していないと判断いたしました。</p> <p>また、2～7号機についても管理区域境界避難扉監視装置の電源の接続状況の確認を行ったところ、同様の事例を10箇所確認しました。</p> <p>（対応状況）</p> <p>今回、接続不備が確認された13箇所については、管理区域境界避難扉監視装置の電源を切り離し、階段通路誘導灯電源は単独回路として確保しました。なお、本事象に至った原因については今後、調査を進め、再発防止に努めてまいります。</p>